

第 52 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	小山ゼミ	チーム名	TTP チャンネル
タイトル	自動車産業からみる日本の経済発展と環境に関する研究		
テーマ群	g) その他		
メンバー	窪井康太 田中宏樹 大迎真斗 田辺航平		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>2015 年 12 月に開催されたパリ協定で、2050 年カーボンニュートラルを目指す具体的な策として日本政府が決定した 2035 年までにガソリン車の新車販売終了という目標に対して、1960 年代以降の自動車産業に対する排ガス規制や電気自動車普及に伴う日本国内の電気供給を調査し、米国、欧州の同時期のデータとの比較を行い、この日本政府の閣議案が果たして現実的なのかを考える。</p> <p>【研究内容】</p> <p>日本の高度経済成長や、その過程で発生した環境問題を自動車産業を軸に調査し、現在自動車産業が抱えている問題の原因や解決策を以下の 1, 2 を通じて提案する。</p> <p>1. 日本の自動車産業が世界トップクラスになるまでの経緯を調査し、戦後の自動車の普及から排ガス規制のためのマスキー法をどのようにクリアし、世界に車を販売することができたのか。その過程で生まれた環境・経済問題にどのような策をとったのかを研究する。</p> <p>2. 今の自動車産業が抱えている目標として、2050 年カーボンニュートラルに向けた 2035 年までにガソリン車の新車販売終了及び電気自動車の普及がある。この目標を達成するための課題として自動車を普及させるための環境整備の未発達、足りない電力を補う発電方法などの現状を調査、研究する。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>2050 年カーボンニュートラルにおける 2035 年までにガソリン車の新車販売禁止の目標が現実的であるか、また、今の日本の発電方法について、視聴者に考えてもらう。</p> <p>参考文献</p> <p>https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001470072.pdf</p> <p>https://cger.nies.go.jp/cgernews/2021_special/362001.html</p> <p>https://cigs.canon/article/20211116_6364.html</p>		